

人口問題 料内五

東北地方の人口に関する調査大要



財團法人 人口問題研究會

は、し、ば、き、

本稿は研究員小田内通敏、研究員増田重喜、研究員齋藤稔に命じて東北地方の人口現象に関する基本的資料を調査せしめたる結果の概要を摘録したるものである。本調査は近く印刷発行の豫定である。

昭和十年三月七日

財団法人 人口問題研究会

目

次

はし
かき

大
要

一、人口動態

1 出生

2 婚姻

3 死亡

4 自然増加

二、現在人口の傾向

三、移動

四、産業別人口構成と其の变化

五、土地と農家

六、一世帶當り人口

其結語

大要

一、人口動態

人口出生

(a) 東北地方の出生率は極めて高く年々全國の水準以上に在るが、昭和八年全國普通出生率三二‰に對し東北區は三七‰を示してゐる。

(b) 東北地方の出生率は以前に比すると最近稍低下の傾向にあるが全國のそれと大体歩調を合せてゐる。

(c) 又此の地方の特殊出生率(出産可能年齢の有配偶女子に對する出生の比率)は全國二三六‰(昭和五年)に對し二八〇‰(同上)を

示之著しく高い。即ち出産力が極めて旺盛
である。

又 婚姻

(a) 東北地方は婚姻が頻繁である。昭和八年普通婚姻率全國七‰に對し東北區八‰である。特殊婚姻率について見れば全國との開きは更に顯著である。

(b) 過去十四ヶ年に亘つて常に婚姻率は高いたるが全國より稍著しい速度で低下して來てゐる。

(c) 一般に極めて早婚である。昭和五年平均婚姻年齢は全國夫ニ九、〇ニ才、妻ニ四、一ニ才であるが、此の地方は夫ニ八、一〇才ニ六、五八才、妻ニ三、八ニ才ニ一、四才である。

(d) 早婚で且婚姻が頻繁であるから配偶者を

持てるものの割合が極めて高い。
(c) 出生率並に出産率の高い原因の1はこ
こにある。

3. 死亡

(a) 死亡率は昭和八年全國一八‰、東北區一九
‰であつて一般に高い。

(b) 最近十四ヶ年間の死亡率の低下は全國より
も明かに遅れてゐる。

(c) 乳児死亡率が特に高い。全國(昭和八年)一
二‰、東北區(同上)一四‰

(4) 自然増加(死亡に對する出生の超過)

(a) 自然増加率は極めて高い。昭和八年全國
一四‰、東北區一八‰。

(乙) 最近十四ヶ年間に於て出生率は略全國の傾向に伴つて低下してゐるが死亡率の低下が全國よりも遅れてゐるから、此の地方の自然増加率の上昇的傾向は全國よりも稍低い。

二、現在人口の増加

(a) 大正九年—昭和五年十年間の現在人口の増加率は全國一五、二%に對して東北區一三、五%であつて全國より稍低いが、青森、岩手、宮城三縣は一九%—一七%で相當高く、秋田、山形、福島三縣は一〇%—一二%で低い。然し一般に非都市的の地域としては現在人

口の増加率は高いと見られる。

(1) 大正九年—昭和七年間の増加の傾向線によつて見ると同様のことが更に明かに看取される。

三、移 動

(2) 移動は比較的少いと見られる。

(3) 青森、岩手、宮城三縣は縣外移動特に少く、秋田、山形、福島三縣は稍多い。

(4) 結局青森、岩手、宮城三縣では自然増加人口の七五—九〇%を秋田、山形、福島三縣では五三—六二%を縣内に止めてゐるのと等しい状態である。

(d) 出稼も東北區全体として見ればそれ程盛
んでは無い。出稼率(出稼者數の現在人口に對
する割合)は昭和七年全國一四%、東北區一
%。

(e) 要するに人口増加力の高いこの地方の人
口は縣外に流出すること少く、縣内に止る部
分が相當多い。

四、産業別人口構成と其の變化

1. 産業別人口構成の特色(昭和五年)

(a) 有業人口の六割五分が農業者であつた。
全國四割八分(農業人口の割合が極めて大
である。

(ハ) 商工業人口の割合が極めて低い。工業人口の割合は、割合一〇一% (全国一九%) 商業人口の割合一〇一% (全国一七%)。

又、産業別人口構成の変化 (大正九年—昭和五年)

(ニ) 農業人口は全国に於ては二厘方減少してゐるが此の地方に於ては五分五厘の増加を示し農業人口の増加数は有業人口増加数の六割以上に當つてゐる

(ホ) 有業者中に占める農業人口の割合は六四・七% から六四・五% に極めて僅かに減少を示してゐるが全国の一・八% から四・八・三% への減少に比すれば云ふに足りない。

五、土地と農家

1. 土地利用

(a) かくて此の地方の暮しき増加人口は主として農業に吸収せられたと見てよい。

(a) 耕地が少く山林牧場原野が多い。即ち

全国(府縣)	山林	牧場原野	耕地	總面積
五〇・九%	七・〇%	一七・〇%	一〇〇・〇%	

東北區	五七・三	八・七	一四・〇	一〇〇・〇
-----	------	-----	------	-------

而かも山林原野の約五割が國有林野である。

(b) 最近十年間(大正十一年—昭和七年)の耕地の増加率は二・二一%であつて府縣の一、三七

に比し大である。

(c) 耕地擴張見込地面積の割合も多い。即ち昭和八年府縣平均二四%に對し東北區は二九%である。

(d) 耕地に於ける田畑の割合は田、五四%、畑、四六%であつて、全國の平均夫々六二%、三八%に比すれば、東北地方は畑の割合が比較的多い。

(e) 田に於ては一毛作田が大部分である。即ち九六%が一毛作田で二毛作田は四%に過ぎない。全國平均は一毛作田六一%、二毛作田三九%である。

(f) 小作地の割合が全國の割合よりも比較的多い。即ち

全國(府縣)
自作地 五四%

小作地 四六%

東北區
五三

(昭和七年)
四七

最近十年間(大正十一年—昭和七年)の自作地
の減少率、小作地の増加率は全國の傾向を
凌いで著しい。即ち

全國(府縣)
自作地 減一%

小作地 減二%

東北區
減四%

増一%

農家

(a) 農家戸数の増加が著しい。即ち大正十一年

—昭和七年間に於て全國増加率平均五%に

對し東北區九%である。

(b) 農家一戸當り耗地面積は全國より稍大で

あるが昭和七年全國府縣〇・九三五町、東北區一
四一七町、最近十年間（大正十一年—昭和七年）
に於て全國と大に低下を示してゐる。減少
率に於ては府縣六%に對し、東北區五・八%で
あつて府縣よりも稍少いが、減少段別は府
縣〇・〇六町に對し、東北區は〇・〇八八町を不し全
國よりも大である。

(1) 一町未満經營農家戸數府縣の平均に於て
は七〇・四%がら七〇・二%に減少してゐるが東北
區に於ては之と逆に五二%から五四%に増加
してゐる。
一町以上三町未満の經營農家の府縣の平
均は二七%から二八%に増加

區に於ては三九%から四一%に増加してゐる。
三町以上の經營農家は府縣に於ては二・三%
から一・八%に減少してゐるが東北區に於て
は七・七%から五・五%に府縣よりも相當著し
く減少してゐる。

(d) 耕地所有廣狹別農家戸数の割合の變化を
見ると一町未満の割合は府縣に於ては七五
%から七六%に増加してゐるが東北區は六五
%から六六%に増加してゐる。
五町未満は府縣二二%から二一%に東北區三一
%から三〇%に減少してゐる。五町以上は府
縣二・五%から二・二%に東北區は四・二%から三
・九%に減少してゐる。

以上の、dの如く此の地方は特に農家の零細化の傾向の著しきを見ることが出来る、

(c) 府縣に於ては自作農家戸数は七%増加してゐるに反し東北區に於ては二%余の減少を示し、小作農家戸数は府縣三%の増加に對し東北區に於ては二%の激増を示し小作農化の著しきことを知ることが出来る。

六、一世帯當り人口

(a) 普通世帯一世帯當り人口は昭和五年五八八であつて全國の五・〇七に比し遙かに大である

(b) 農業世帯一世帯當り人口は昭和五年六・七

であつて全國の五・七に比し之亦遙かに大である。

(4) 大正九年―昭和五年間に於て全國の傾向に伴つて一世帯當り人口は増加してゐる。

(全國四・九―五・一、東北區五・七―五・九)

